

令和5年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2	学年	3	類型	カレッジコース
教科書	国語表現 改訂版			副教材	国語表現 改訂版 基礎練習ノート				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点					学習のねらい・学習の目標・評価の観点		
				①	②	③	④	⑤			
1 学期	4	第1部 表現力を培う	書いて伝える	整った文の書き方を理解させる。	◎				○	学習のねらい 1学期は小論文を書くことを見据え、まず、文法的な間違いや文のねじれが起こらないよう基本的な表現について学びます。また、正しい敬語が使えるようになるために練習問題を解きます。その後、小論文の構成の基礎を学び、構成メモを作り時間を計って小論文を執筆します。今まで学んだことをもとに推敲し、テーマを変えて小論文を時間内に仕上げられるよう練習します。 2学期は面接で正しい敬語を使い、自己をアピールできるよう自分の長所短所や趣味、特技などを見つめ直し、文章に起こせるようメモしていきます。メモをもとに志望動機や願書が書けるように練習します。 3学期には、書類が正しく書けるよう調べたり練習したりします。	
			"	"			◎		○		
			言葉や表現の問題を取り上げ、表現についての関心を深めさせる。			◎		○			
	5	"	係り受けの正しい文を理解させる。				◎		○		
			"				◎		○		
			書いて伝える	文末表現を統一し、適切な敬語を知る。	○		◎		○		
	6	"	わかりやすい文を書く	わかりやすい文を書くためのポイントを理解させる。			○		◎		
			"	わかりやすい文の書き方を習得させる。	◎				○		
			"	"	○				◎		
			文のつなぎ方	接続表現の種類と働きを理解させる。				◎			○
7	"	"	"	◎		○					
		"	"	◎		○					
		"	"	◎		○					
2 学期	8	"	"	"	◎				○	学習の目標 「書く」「話す」ことを中心に伝え合う力を高め、表現する楽しさを味わい、コミュニケーション能力を養います。	
			"	"	◎				○		
			"	"	◎				○		
	9	第1部 表現力を培う	小論文・レポート入門	小論文とは何かを理解し、構成を理解させる。	○				◎		
			"	推敲の観点を理解させる。	◎		○				
			"	自己を客観視する。	○				◎		
	10	"	"	"				○	◎		評価の観点 ①関心・意欲・態度 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝えあおうとする。
			効果的な自己PR	構成メモを作る。				○	◎		
			"	"				○	◎		
			発表する。		○	◎					
11	"	メディアを駆使する	手紙の形式を理解させる。	○				◎	②話す・聞く能力 読解した内容や、自分の意見を適切な言葉で表現することができ、他者の意見を正しく理解できる。		
		"	通信文を書く。	○		◎					
		電話を使いこなす	電話のマナーや言葉遣いを理解させる。	○				◎			
12	"	"	相手に応じた対応の仕方を理解させる。	○	◎				③書く能力 文章の内容を整理でき、自らの考えを正しい文章で簡潔に書くことができる。		
		ネット社会とコミュニケーション	ネットを使用する上での留意点を理解させる。	◎		◎		○			
		メディアと情報	メディアの情報の特徴を理解させる。	◎				○			
3 学期	1	第2部 表現を楽しむ	言葉で遊ぶ	回文・折句・しりとりを楽しむ。		○	◎		○	⑤知識・理解 表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。	
			"	詩歌を楽しむ。	◎				○		
			"	詩歌の魅力と楽しさを知る。			◎	○			
	2	"	"	"	◎		◎		○	備考	
			"	家庭学習							
			"	"							
	3	"	"	"	"						
				"	"						
				"	"						
				"	"						

※評価の観点 ①：関心・意欲・態度 ②：話す・聞く能力 ③：書く能力 ④：知識・理解

◆学習方法のポイント

【国語表現の特色】

- 表現技術の向上を目指します。
- 作文やスピーチ、ディベートなどを通して、自己を表現し、他人を理解する態度を育てます。
- 手紙の形式や、敬語の使い方など、就職や進学に向けて基本をマスターします。
- 国語力の基本となる漢字の読み書き・慣用句などを徹底的に覚えます。

【授業】

- 週2時間の授業があります。
- 授業の流れ
 テーマを決定する→作文を書く→推敲→発表→評価
- 1学期は整った文章を書くための基礎を学びます。
- 2学期は小論文の型にそって実際に小論文を書いていきます。
- 3学期にはブックトークをしたり手紙の書き方を学んだりします。

【家庭学習】

- 日頃からニュースなどに興味を持っておくことが大切です。
- 授業時間以内で書き上げられなかったものをきちんと仕上げます。
- 敬語などは普段から使うようにしましょう。

【定期考査】

- 漢字・慣用句・ことわざなど基本の確認をします。
- 文章の間違いなどを訂正するなど、文章を推敲できるようにしましょう。

【その他】

- 日本人だから話せて当たり前・と思っていたら、意外とみんな苦労します。日頃から新聞・ニュース・読書などに関心を持つことが大切です。文章力はすぐには伸びません。コツコツ日頃から取り組みましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④知識・理解の五つの観点 から評価します。ただし、定期考査を重視します。	
評価の規準	1 学期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	2 学期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	3 学期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均